
行政改革に関する提言書

令和2年2月

芦別市行政改革推進委員会

「提 言」

芦別市行政改革推進委員会は、芦別市の財政状況が、人口減少や少子高齢化の進行と、これに伴う地域経済の縮小による市税の減少をはじめ、人口を算定基礎とする地方交付税等の削減に加えて、市立芦別病院への経営支援に伴う財政負担の増加等により、急激に厳しさを増している状況にあることから、芦別市が取り組む「行財政改革」の推進に関し、必要な事項を調査審議するため、市長の附属機関として、平成 29 年 10 月に設置されました。

これまで、市の各種施策における事務事業等の検証を行いながら、どのような見直しやアクションを行うべきかを市民の目線に立って検討し、提言書としてとりまとめを行ってききましたが、今年度は、20年後、30年後の将来の芦別を見据え、芦別がどうあるべきか「目指すべき姿」を考え、そのために必要な各種施策・事業の見直しや新たに必要な取り組みなどを検討するとともに、今後、人口減少がますます進むことが想定されるため、総じてまちのコンパクト化を進めていくようなスクラップアンドビルドの視点をもって議論を重ね、第3弾の提言書を取りまとめました。

今後も行財政改革の取り組みが一層推進され、少子高齢化や厳しい財政状況の中にあっても、将来にわたって持続可能な安心して住み続けたいと思えるまちづくりの推進に期待いたします。

はじめに

今年度の行政改革推進委員会では、20年後、30年後の将来の芦別を見据え、芦別がどうあるべきか、大きく3つの「目指すべき姿」を考え、そのために必要な各種施策・事業の見直しや新たに必要な取り組みを検討するとともに、スクラップの視点を含めた官民連携や他地域との連携などにより、行政改革が一層進むような取り組みも検討を行いました。

将来に向けた3つの「目指すべき姿」は、

- I 住み続けたいと思えるまち
- II 雇用の創出等による安心して暮らせるまち
- III 高齢者がいきいきと暮らせるまち

とし、この目指すべき姿を実現していく場合の必要な取り組み等について、次のとおり提言いたします。

I 住み続けたいと思えるまち

住み続けたいと思えるまちにしていくためには、次代を担う子どもたちが地元企業へ就職することや、市外へ進学しても地元に戻ってきたいと思えるような体制を作るべきである。

このため、小さい頃から市内の商工業や農業等に親しみが持てるよう、次代を担う子どもたちに、市内企業や農業関係者による出前講座・出前授業を充実させるなど、地元企業への就職や農業経営などの将来の進路をイメージしやすいような教育環境の充実を図っていくべきである。

また、生徒数の減少に直面している芦別高校を今後も存続させるために、より魅力や特色のある学校とし、芦別高校への進学者を確保するとともに、既実践されているインターンシップに加え、市や商工会議所が主催している企業見学会の対象学年や機会を増やすなど、生徒たちに地元企業の良さや芦別の魅力を直接伝えるような取り組みも進めるべきである。

さらに、子どもから大人まで住み続けたいと思えるようなまちにしていくためには、図書館や百年記念館等の生涯学習の拠点施設も維持・充実させ、市民も参画することによって、幅広い年齢の方がさらに利用したくなるようなより魅力ある場を提供していくべきである。

なお、過疎化の進展等により児童生徒数の減少が著しい中、部活動ができ

なくなるなどの支障も出てきていることから、学校統合を通じて教育の質の充実を図ることを検討すべきである。

Ⅱ 雇用の創出等による安心して暮らせるまち

雇用の創出等による安心して暮らせるまちにしていくためには、地元企業で生涯にわたって働くことができる環境づくりを進めていくべきである。

このため、地元企業の求人状況が市民にわかりやすく伝わる仕組み作りや地元企業への就職奨励制度の充実のほか、市民及び市外の就職希望者と基幹産業を中心とした地元企業との雇用のマッチングが図られるような取り組みを推進すべきである。

また、芦別のみならず、中空知管内でも企業の事業承継が問題となっていることから、事業所をたたもうと思っている方の情報を集約化するなど、中空知の起業・事業承継センター等の設置により、起業相談やマッチング体制の充実を図り、地域住民及びU・Iターン者にPRしていくような広域的な取り組みも推進すべきである。

さらには、各種の業界団体による就職体験プログラムの制度化や進学等によって芦別を離れた方がUターンしたくなるような取り組みを充実させるほか、地元企業の求人活動に対する行政支援など、新たな取り組みを進めていくべきである。

Ⅲ 高齢者がいきいきと暮らせるまち

高齢者がいきいきと暮らせるまちにしていくためには、楽しみや生きがいを持って生活できるような環境づくりを進めるべきである。

他市の事例では、独居老人給食会及び高齢者を自宅からスーパーや介護予防教室にマイクロバスで送迎するなどの特徴的な取り組みが行われているが、本市においては、シルバー食堂やシルバー人材センターの設立のほか、本市が推進している合宿事業を高齢者がサポートするなど、生きがいを持って高齢者が活躍できるような取り組みなどを進めていくべきである。

なお、今後さらに少子高齢化や人口減少が進む中では、高齢者がより暮らしやすい環境を作ることが必要であるため、買い物や通院などの利便性を高めるなど、国の制度を活用しながらまちのコンパクト化を進めるべきである。

また、まちのコンパクト化には時間を要するため、各地域に住んでいる高齢者の買い物支援など、必要に応じて検討すべきである。

【提言をとりまとめる過程での意見】

提言をとりまとめる過程の中で、今後、見直しや改善していただきたい取り組みに関する意見もとりまとめましたので、あわせて検討願います。

- 1 広報の作成や各種審議会等に高校生などが参画することにより、まちの活性化や生徒達のスキルアップにも繋がることから、実践を検討願いたい。
- 2 芦別の歴史や経済への興味関心を促し、子どもたちの地域愛を育むことを目的として、小学校3、4年生の社会科副読本が作成されているが、中高生になっても地域愛を継続して育ていけるよう、中高生向けの副読本的な教材の作成を検討願いたい。
- 3 今後、人口減少がさらに進んでいく中においては、市役所の職員数の削減や事務のさらなる効率化を進めていくべきである。さらには、行政の事務的経費の削減等を計画的に進めていくためにも、官と民の役割分担を明確にしたうえで、官民連携の取り組みについて検討願いたい。
- 4 庁舎の建替えにあたっては、今後の人口減少を見据え、可能な限りコンパクト化するとともに、中長期的なコスト低減の観点から、複合化・多機能化も含めて慎重に検討願いたい。
- 5 閉校した小学校の部分的な利用も視野に入れ、有効活用を検討願いたい。
- 6 各種審議会等のスリム化・統合化のほか、報酬のあり方についても検討願いたい。
- 7 市内のアパートや中古住宅等の不動産情報が少ないことから、宅地建物取引士と連携した情報提供について検討願いたい。

芦別市長 荻原 貢 様

令和 2 年 2 月 26 日
芦別市行政改革推進委員会
委員長 稲津 寿 一

令和元年度 芦別市行政改革推進委員会の開催状況

回数・日時・場所	主 な 内 容
<p>【第1回芦別市行政改革推進委員会】 令和元年6月27日（木） 午後5時から 総合福祉センター大ホール</p>	<p>○辞令交付 ○市長・委員長あいさつ ○平成30年度行財政改革の取組について ○ワークショップ<グループ討議> ○ワークショップ結果発表</p>
<p>【第2回芦別市行政改革推進委員会】 令和元年8月5日（月） 午後5時から 総合福祉センター別館ふれあいホール</p>	<p>○ワークショップ<グループ討議> ○ワークショップ結果発表 ○次回開催日程について</p>
<p>【第3回芦別市行政改革推進委員会】 令和元年8月29日（木） 午後5時から 総合福祉センター大ホール</p>	<p>○ワークショップ<グループ討議> ○ワークショップ結果発表 ○次回開催日程について</p>
<p>【第4回芦別市行政改革推進委員会】 令和元年10月24日（木） 午後5時から 総合福祉センター別館ふれあいホール</p>	<p>○ワークショップ<グループ討議> ○ワークショップ結果発表 ○次回開催日程について</p>
<p>【第5回芦別市行政改革推進委員会】 令和元年12月4日（水） 午後5時から 総合福祉センター大ホール</p>	<p>○ワークショップ<グループ討議> ○ワークショップ結果発表 ○次回開催日程について</p>
<p>【第6回芦別市行政改革推進委員会】 令和2年2月25日（火） 午後5時から 総合福祉センター大ホール</p>	<p>○行政改革に関する提言書【第3弾】（案） について ○市立芦別病院のあり方検討委員会の答申 内容について</p>